

細殿並用中床子卅脚

〔西宮記 正月下〕御薪 同日○上宮内省御薪事辨史式兵本省輔已下著正諸司次第列立作法畢最

後辨摩靴云從與之諸司唯稱退出次所司設粥等辨諸司共著之行晴儀謝座具見儀

〔江家次第第三月〕御薪年中所用御薪諸司并五畿宮内省正廳近例立東第三間立辨床子南面

第二間立史床子西面在中其後立史生床子同上第四間立式部兵部宮内輔丞錄床子重行置

上 其西設史生床子 底中立官掌及三省省掌床子北面辨入自東戶近例用就床子 史

及史生入自東砌著 三省輔昇自南面西階著 丞以下昇自西面著 式部省掌出唱計訖 官掌

省掌等四人置版四出了 官掌著座 式部省掌就版申云々御薪進申 丞云進禮 錄讀申云

云讀申云司々乃進禮留御薪 輔云勸 錄稱唯 丞曰候 諸司唯出 兵部亦如之 次宮内亦

如此宮内省掌率二省史生著版勸 二省錄一一著版云々 辨云與之 次辨以下退辨官爲勸使

取二省等進薪 次改座 設饌 次辨以下著 改履 次杯酒三行 次下著 次退出

〔公事根源 正月〕御薪 同日五〇十日

是は百官悉薪を奉て宮内省におさめらるなり其數などは延喜式に見えたり天武天皇四年

正月十五日百寮諸人薪を奉る事有御薪と書て見かま木とよむべし

〔日本書紀天武二十九〕四年正月戊申日〇三百寮諸人初位以上進薪 五年正月甲寅日〇十百寮初位以上

進薪 〔年中行事歌合〕八番 左 御薪 家尹朝臣

百敷のものつがさのみかま木にたみのけぶりもにぎはひにけり〇中

左みかま木と申は百官ことくくみかま木をたてまつるなりたとへばこれもたみのかた

をやすめんためなりくなひのつかさにおさめられけるなり其數はるんぎの宮内式などに